
男女表現ガイドライン

🌈ジェンダー再生産防止のために🌈

目次

このガイドラインの使い方.....	2
イラスト・写真編	
1 家庭.....	3・4
2 地域.....	5・6
3 職場.....	7・8
4 学校.....	9・10
言葉編.....	11
行政職員とメディア・リテラシーと表現...	12
編集関係者.....	13

平成 14 年 7 月

尼崎市男女共同参画推進本部

～ はじめに ～

行政が作成し、発信するポスター、パンフレット、チラシ等の刊行物は、人々の意識形成に様々な影響を与えるメディアの一部であり、当然ながら、その表現については慎重でなければなりません。

また、メディアにおいては、表現の自由が大切に保護されるとともに、表現される側の人権も尊重される必要があります。

しかし、私たちが無意識のうちに使っている男性中心の表現や固定的役割分担を前提とした表現は、個々では差別的な表現とは思えなくても、イラスト、写真、文言等で同じような表現が積み重なって市民に届けられると、当たり前のこととして受け止められていきます。そして、結果的に、私たちが発信した表現は、ひとつの方向性を持ったメッセージとなり、性別による固定的な役割分担意識を助長することになります。

このような認識のもと、発信者である職員一人ひとりが、生物学的な性差ではなく、「女らしさ・男らしさ」といった社会的・文化的につくられた性差（ジェンダー）に対する感覚を磨き、一層人権に配慮した刊行物を作成し、発信していくことが大切です。

これらを踏まえて、職員の皆さんが、従来の固定化した男女表現を追認するのではなく、どのような表現がより望ましいのかを考えていく手がかりとしてご活用いただけるようにこのガイドラインを作成しました。

今後、本市において、男性も女性も自分らしさという個性や能力を十分生かすことのできる男女共同参画社会の形成が、市民、事業者、行政が一体となって一層推進されることを強く期待します。

このガイドラインの使い方 ~ジェンダーチェックしてみませんか?~

このガイドラインは、特定の表現を禁止したり、また絶対であるという基準を示したものではありません。普段の生活をジェンダーに敏感な視点で見直してみることによって、無意識のうちにとらわれていたジェンダー意識に気づき、職員一人ひとりの価値観を見つめ直すきっかけとなることを期待して作成しました。

刊行物等の表現だけでなく、日常におけるジェンダー意識について、各職場でフリーに話し合ってもらえることが、より多様で適切な表現につながり、そのことが本市における男女共同参画社会の形成につながると考えます。

- ① 配布や掲示を依頼されたものについても、何か気づいたら、そのままにせず、職場で検討し、判断しましょう。
- ② 業者に発注するときも、このガイドラインの趣旨について理解と協力を求めましょう。
- ③ 写真については、現状を撮影すると性別に偏りがある場合等が多いので、撮影する時や選ぶ際に、できるだけ偏りなく男女が登場するよう配慮する工夫も大切です。



この表現ガイドラインで使っていますカットは、コピーし転載しても差し支えありませんが、等倍または1.5倍を限度とします。

イラスト・写真編

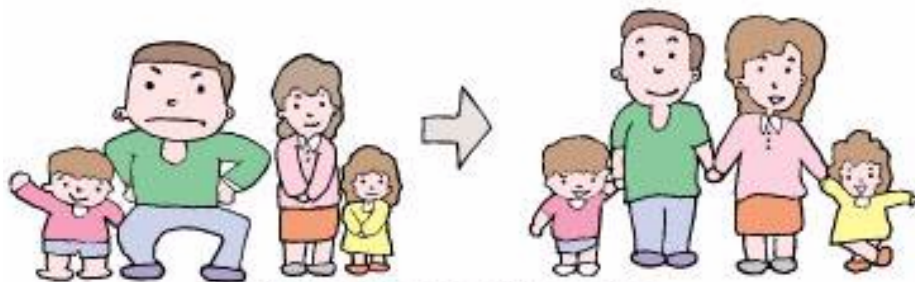
1 家庭

女性の社会進出が進む一方で、「女らしさ、男らしさ」「女（男）はこうあるべきだ」とするジェンダーや、「男性は仕事、女性は家事・育児」といった性別役割分担意識は依然として根強く残っています。

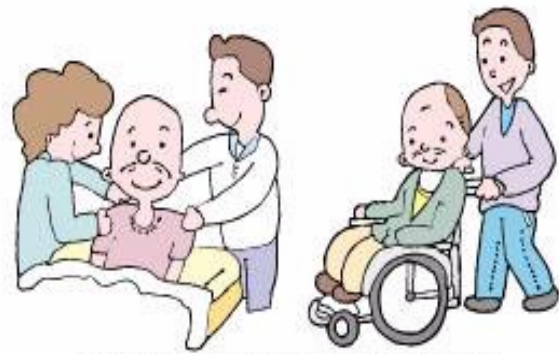
しかし、少子高齢化が進展し、多様な家族形態が生じる中、男女が共に社会に参画していくためには、男女が互いに家族の一員としての役割を果たし、男性や子どももあらゆる分野における家庭責任を担うことが大切です。そして、ジェンダーや性別役割分担意識を再生産することのない家庭のあり方を考えていきましょう。

こんなことはありませんか？

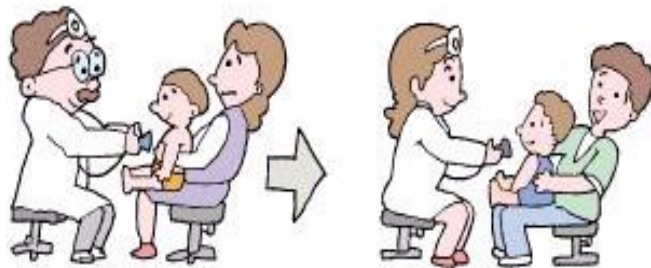
- ① 家事・育児・介護は女性、仕事は男性と役割を決めてしまうことが多くありませんか？
- ② 男の子は大学、女の子は短大（高校）へなどと決めてしまう傾向はありませんか？
- ③ 女性（女の子）には暖色系（ピンク）・スカート・エプロン・人形を、男性（男の子）は寒色系（ブルー）・ネクタイ・ボールなどと決めてしまうことが多くありませんか？
- ④ 男性は大きく（前・主に）、女性は小さく（後・従に）描く傾向はありませんか？



家庭は家族が協力して楽いています



家事、育児、介護も男女ともに参画しています



2 地 域

自治会、地域活動、ボランティア活動等の様々な組織のある地域において、実際に活動の多くを女性が担っている一方、男性の参加が少ないのが現状です。

しかし、地域社会の活力をより高めるためにも、例えば、代表は男性が務め、女性が意思決定の場に占める割合は少ないといった慣行等に潜むジェンダーや、伝統行事等の担い手や役割が性別によって決められているなどの固定的な性別役割分担意識をあらためて見直していくとともに、幅広い年齢層の人たちの意見を反映しながら、男女が共に地域活動に参画することが必要です。

こんなことはありませんか？

- ① 地域、福祉のボランティア活動などで実際に活動するのは女性、代表者は男性になると決めてしまう傾向はありませんか？
- ② 地域活動や行事で男性は指導的役割、女性はお茶や接待等の家事的役割を担うなど、性別によって役割が決まっていることが多くありませんか？
- ③ 伝統行事の担い手が男性（男の子）に限定されるなど、性別によって役割が決まっていることがありませんか？





家事的役割も男女共に担います



地域、福祉のボランティア活動は男女共に参画しています



男女共に地域活動に参画しています

